

京大病院 リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。4月になりました。

新しくリスクマネージャーに任命された方もおられると思います。

どうぞ1年間よろしくお願いいたします。

医療安全管理室では、そのときの社会のタイムリーな話題を紹介しながら、リスクや安全に関する用語をご紹介します。

今回は、改めて「確認」とは何かを考えていきましょう。

項目：

1. 妥当性チェックと照合型チェック
2. 投薬の安全 (Medication Safety)

1. 妥当性チェックと照合型チェック

2022年1月、薬剤誤投与の死亡事例分析の提言が出されました。提言にある「確認方策」についてご紹介します。

https://www.medsafe.or.jp/modules/advocacy/index.php?content_id=87

● 薬剤投与は多職種が横断して関わる医療行為



それぞれの投与段階で、正しい行為がなされているか確認を行っていますが、改めて、何をどうやって確認しているか考えてみましょう。

確認には2通りあります。

妥当性チェックは、知識に基づくチェックです。医師が病態を理解して、その薬の処方が必要かどうかを判断することは妥当性チェックです。ある症状が薬剤の副作用かどうかを考えて、中止しようという判断も、妥当性チェックです。

もう一つの確認方策は、**照合型チェック**です。

照合型チェックでは、2つの情報を照合し、同一であることを確認します。処方箋に記載のある薬剤名と、目の前の薬剤が同一かどうか確認するのは照合型チェックです。

照合型チェックは2つのものを照らし合わせるので、特別な知識は不要ですが、**自分で責任をもって照合する意識が重要**です。

2. 投薬の安全 (Medication Safety)

世界保健機関は (WHO) は、2019年に世界患者安全の日を制定しました。**2022年のテーマは投薬の安全**に決まりました。世界的にも薬剤の安全は重視されています。**患者さんと一緒に薬の安全を高め**ましょう。

WHOは、患者さんに、5つの時点で薬について考えましょう、というメッセージを出しています (図、WHO提供。原文は英語。

<https://www.who.int/publications/i/item/WHO-HIS-SDS-2019.4>)

薬を

- ① 始めるとき
- ② 服用するとき
- ③ 追加するとき
- ④ 振り返るとき
- ⑤ 止めるとき

医師・歯科医師、薬剤師、看護師に質問しましょう、とあり、各時点での質問5問が紹介されています。



患者さんとの情報共有を確実に行うためには、患者さんとの対話を大切にしたいですね。

* 今回は、「投薬の安全と確認方策」について、お伝えしました *

